

令和5年度 学校評価【定時制】

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月4日実施)	総合評価(3月15日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎学力の定着、専門教育の充実、共通教科と専門教科のバランスに配慮した教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②専門教育充実のため、資格取得の推進、企業や職業技術校等との連携や三修制の強化など、夜間定時制高校としての魅力をより一層充実する。</p> <p>③学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の主体的活動を推進する。</p>	<p>①新教育課程の実施状況を把握し、課題の整理や関係機関との調整を図る。新教育課程を意識した授業改善に取り組む。</p> <p>②資格取得への動機付けを積極的に行い、取得率向上に向けた対策を実施する。また、企業・上級学校等と連携し、工業教育の充実を図る。さらに、三修制の制度を説明し、生徒の理解を深める。</p> <p>③学校行事では、感染防止対策を講じた上で生徒が安全・安心で主体的・対話的かつ充実して取組めるように内容を検討するとともに、通常の実施の支援を推進する。</p>	<p>①新教育課程における定通併修単位認定校との連携、学校外活動による単位認定、0時限授業の実施に関連した課題を整理し体制を整える。新教育課程を意識した授業改善や評価方法等の確認を行う。</p> <p>②社会的・職業的自立の意義を意識させながら、資格取得に対する動機付けを積極的に行い、丁寧な指導や補習を行う。企業や上級学校等と連携した工業教育を行う。生徒に対する三修制についての説明と、指導体制を充実させる。</p> <p>③アフターコロナを見据えながら、生徒の安心・安全を最大限に優先しつつ、生徒が主体的・対話的にコロナ以前と同様の規模で積極的な学校行事や生徒会活動を行うための機会を増やす。</p>	<p>①生徒にとって、定通併修や学校外活動、0時限授業に取り組みやすい体制を整えられたか。研究授業や授業見学等、授業改善に向けた機会が十分に設けられたか。生徒による授業評価アンケート結果で改善が見られたか。</p> <p>②生徒の資格受検率および取得率が昨年度と比較して増加したか。企業・上級学校等と連携した教育活動を実施できたか。昨年度と比較して三修制に取り組む生徒が増加したか。</p> <p>③マラソン大会・体育祭・文化祭・球技大会等の学校行事や生徒会活動について、生徒が主体的・対話的に取り組めたか。昨年度よりも各行事への生徒の出席率が向上したか。</p>	<p>①定通併修単位認定校との連絡・調整を行うとともに、学校外活動による単位認定や0時限授業の実施に関連した課題を整理し、多様な学びに対応できる体制の整備をすすめた。新教育課程を意識した授業改善に向け、全日制と定時制で互いに授業を見学する機会を設けた。</p> <p>②授業やLHR等で資格取得に対する動機付けを積極的に行い、始業前や授業後に補講の機会を設けた。生徒に対する三修制の説明と、三修制に係る学習支援体制の充実をすすめた。</p> <p>③安全や感染防止に配慮し、コース、実施種目、形態を工夫し、コロナ以前の規模に向けて十分な準備をしたことで、参加率がマラソン大会は80%となり、体育祭は65%から77%に増加した。</p>	<p>①基礎学力の定着と専門教育の充実に向け、定通併修や学校外活動による単位認定、0時限授業を活用した更なる学習指導体制の整備をすすめる。</p> <p>②さらなる資格受験率と合格率の向上を目指して引き続き指導を行うとともに、企業・上級学校等と連携した教育活動について検討していく。生徒が自己のキャリア形成と関連づけながら三修制を活用できるよう支援していく。</p> <p>③今後も感染防止に最大限配慮しながら学校行事を実施するとともに、アンケートで生徒の満足度を把握し、より良い学校行事の在り方を検討する。</p>	<p>①三修制は学習意欲を高める制度の一つであり、定通併修や校外での学習の単位認定制度をさらに推進し活用するとともに、個別の生徒に寄り添った指導を行ってほしい。</p> <p>②卒業後のキャリアプランに沿って資格がどのように生きるかを生徒が意識した支援と卒業時には何らかの国家資格を取得できるように指導願いたい。工業高校の特色を生かした学習を通じて、社会に出て役に立つ資格の取得を進めて欲しい。</p> <p>③生徒数が少ないメリットを活かして定型的に行事を行うのではなく、必要な行事と生徒のニーズにより、その年度ごとに違った行事を検討してもらえると主体的に繋がりが、自分事に捉えて学校生活が充実していくと考える。</p>	<p>①定通併修や学校外活動による単位認定制度の整備により、生徒が三修制に取り組むやす体制を整えることができた。生徒が意欲的に継続して学習に取り組めるよう、学習支援を充実させることが課題である。</p> <p>②丁寧な資格取得指導により、在籍生徒の約3割が検定や技能講習等の資格取得に至った。企業や上級学校等と連携した工業教育に向けた取組が課題である。</p> <p>③学校行事の在り方について、安全や感染防止に最大限配慮し、昨年度よりコロナ前と同様に遠足、マラソン大会、体育祭、文化祭、修学旅行といった行事を実施し、生徒数が減少してはいるが参加率を向上させることができた。</p>	<p>①多様な教育的ニーズをもつ生徒が在籍していることを踏まえ、授業力向上のための校内研修や研究授業等に全職員で取り組むとともに、少人数である定時制のメリットを生かした一人ひとりの生徒に寄り添った指導と、三修制に取り組む生徒に対する学習支援の充実を推進する。</p> <p>②各種検定を活用し、生徒が卒業後のキャリアプランと関連付けて国家資格取得に向けて取り組めるよう、スモールステップで丁寧な指導・支援体制を充実させる。企業や上級学校等と連携した工業教育を充実させる。</p> <p>③引き続き生徒の安心・安全を最大限優先し、以前と同様の規模で学校行事や生徒会活動を実施する方法を工夫・検討していく。主体的に取り組める充実した内容の企画運営に努めることで、生徒の学校生活がより充実していくものとなるよう指導・支援する。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>①個に応じた支援のための組織的な教育相談体制を確立するとともに、基本的な生活習慣の確立に向けたきめ細かい生活指導に取り組む。</p> <p>②部活動の活性化や各種コンテスト、競技会への参加を通して、生徒の達成感、連帯感、責任感を涵養する。</p>	<p>①生徒一人ひとりが安全で安心な学校生活を送れるよう、教育相談体制の充実を図る。また、健康的な生活習慣の確立を目指した指導に取り組む。</p> <p>②安全な活動方法に配慮しながら、部活動の活性化や各種コンテスト、競技会への参加を促し、活動の定着化を図る。</p>	<p>①多様化する課題に対応するため、SCおよびSSWとの連携と活用を図るとともにケース会議等を実施し個別の生徒情報を共有する中で組織的な教育相談体制の確立と周知をする。また、基本的な生活習慣の確立に向けた登校時の声掛けを継続する。</p> <p>②生徒の安心・安全を最大限優先した活動をしながらか大会等への参加といった目標を設定し、生徒の加入率向上と活性化をめざす。</p>	<p>①今年度から配置されたSSW及びこれまでに関係性を築いたSCとの連携を図り、生徒のアンケート結果に問題があった場合等において個々の生徒のニーズに迅速かつ適切に対応できたか基本的な生活習慣の確立により、生徒の遅刻数が減少したか。</p> <p>②部活動中のケガやコロナ感染リスクを避けながら、生徒が安全に練習および大会・コンテストなどに参加できたか。</p>	<p>①かながわ子どもサポートドックの調査も踏まえながら、正門・昇降口において生徒の体調把握と基本的な生活習慣の確立に向けた登校指導・声掛けを毎日行い、個別指導へつなげることができた。</p> <p>②昨年度より部活動の参加者が増加した。特にバドミントン部は全日制と合同練習して全国大会へ出場した。今年度も西相・湘南地区定時制通信制スポーツ大会へ出場した。年末にはコンピュータ部がマイコンカー全国大会に出場・完走し結果を残した。</p>	<p>①コロナ感染者数が減少してきたことから、生徒達の緊張感が緩んできているように感じられ、生徒の登校時間も遅れ気味になってきている。基本的な生活習慣の定着を目指し、校内指導体制の充実を図る。</p> <p>②部活動やその他の運動の時間について、引続き感度を注ぎながら、怪我等のアクシデントや感染症を防ぐ活動方法を検討・推進していく。</p>	<p>①生徒個々の生活習慣を把握して個別の指導計画を立てておられることに敬意を表します。今後も郊外の関係組織とも連携し、自立した職業人の育成のためにご尽力をお願いしたい。</p> <p>②目標は達成できていると考えられる。部活動は高校時代に夢中になれるものの一つです。活動を希望する生徒の支援を今後も大事にしてほしい。生徒の皆さんの、安全・安心かつ充実感・満足感のある学校生活に向けて、ご指導、ご支援をよろしくお願ひします。</p>	<p>①登校指導により生徒の対応から気持ちの浮き沈み等を見取ることができ、問題発生前に先回りした対応につなげることができた。</p> <p>②部活動においては、安全に練習活動をすすめる生徒が徐々に増加し、大会にも参加することができた。特にバドミントン部は定通併修全国大会に出場し団体戦3位。パソコン部はマイコンカー全国大会に出場する等、好成績を収めた。引き続き活動の活性化をめざしたい。</p>	<p>①登校時における声掛けは毎日実施しているが、その時間に登校してくる生徒の顔ぶれは決まっている状態。個々の生徒の状況を的確に把握し個別の対応をしながら基本的な生活習慣の確立に向けて適切な対応をし、全体的な生徒の登校時間がもう少し早められる方策を検討する。</p> <p>②これからも生徒の安心・安全かつ充実感・満足感のある活動を最大限優先しながら、引き続き部活動への加入率向上をめざして活性化と大会等への参加促進を図っていく。</p>
3 進路指導・ 支援	<p>①生徒一人ひとりの進路実現に向けた指導、支援の充</p>	<p>①生徒一人ひとりが卒業後の進路に対して具体的なイメージを持てるよう、組織的</p>	<p>①生徒の進路希望についてLHRや専門科目、個別面談の機会を通して聞き取った情報</p>	<p>①生徒が持つ進路希望について聞き取り、職員間での情報共有ができたか。生</p>	<p>①生徒が主体的に取り組めるよう支援したことで、卒業予定者7名中、3名が就職内定</p>	<p>①入学当初より進路活動に向けた意識付けを継続しながら、学年や</p>	<p>①卒業生の進路未定者がいないのはキャリア教育の成果が出ていると思う。</p>	<p>①職員全体で情報共有し、卒業生7名に対し、就職希望3名・進学希望1名が合格、</p>	<p>①人数が少ないこともあり、HRだけではなく授業中や雑談の際に本人から出た言葉など様々な状況</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月4日実施)	総合評価(3月15日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		<p>実を図る。</p> <p>②これからの時代を生きて行くうえで必要な資質や能力を育成するためのキャリア教育を推進する</p>	<p>な指導を徹底する。</p> <p>②LHR等を効果的に活用し、組織的な進路指導及びキャリア教育を推進するためのプログラムの充実を図る。</p>	<p>を教員全体で共有し、生徒が主体的に進路実現を叶えられる様な支援体制を整える。</p> <p>②昨年度に引き続き、就職後の社会生活において困りごとが起きないよう、ソーシャルスキルトレーニングのようなキャリア教育実践プログラムの構築をめざす。</p>	<p>徒自らが主体的に進路実現に向けた取り組みができるよう、意識付けと支援ができたか。</p> <p>②キャリア教育で目標とした身に付けさせる力の獲得に沿った企画を実現することができたか。</p>	<p>し、1名が専門学校に合格できた。2名は進学活動を継続中で、他1名は有職者であり、卒業後も現在の仕事を継続する。</p> <p>②今年度は例年実施している、本校卒業生を招いている進路懇談会を小田原高校の生徒も招き実施することができた。担任や各科の教員からのキャリア教育によって生徒のキャリア意識が高まった。</p>	<p>進路担当だけでなく全体で連携して組織的に支援できるような体制を構築する。</p> <p>②卒業後の社会生活において起こりうる困難な事に対応ができるようにソーシャルスキルトレーニングなど、キャリア教育に資する内容の実施を検討する。</p>	<p>職員の情報共有がどのように活かされたのか校内評価に反映していただきたい。</p> <p>②工業高校ならではのインターンシップやデュアルシステムを活用した進路支援も充実してほしい。</p> <p>キャリア教育とともに、ライフプランまで含めた将来像をイメージさせる内容が含まれるとさらに充実すると考える。</p>	<p>1名は有職者で仕事を継続。2名が進学活動を継続中であるが、希望に沿った適切な進路支援ができた。</p> <p>②今年度は本校卒業生を招いての進路懇談会の他にSSWによる講演会を実施し、何を大切に生きていくのかと仕事との関係について学ぶ事ができキャリア意識を高めることができた。</p>	<p>を多面的に拾い共有することで個々の生徒が進路に対してどのような希望をもっているか確度を上げて把握することができ、今後も継続していく。</p> <p>②今年度はSSWによる講演会を実施し、仕事に対する心構えについて学ぶ事ができたので引き続きSSWの他にもSC(スクールカウンセラー)による講演等もいただきながら心理的な面からも将来について考える機会を継続する。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域産業や地域社会との連携、協働による教育活動の充実に取り組む。</p> <p>②地域や中学生に工業高校の魅力・特色を発信するため広報活動の充実を図る。</p>	<p>①様々な教育活動において、地域等との連携、協働の場面を設けて教育活動の充実を図る。</p> <p>②本校定時制の特色や学校行事の様子、学校説明会等の情報を地域や中学校にアピールするため、HPなどを活用し、魅力ある取り組みや活動等の広報活動を充実させる。</p>	<p>①行事や地域貢献活動において、地域や保護者等と連携しながら徐々にコロナ以前の活動状況に戻せるよう、生徒の主体的活動の促進と内容の充実を図る。</p> <p>②学校の特色がより分かる、学校行事や生徒会活動、部活動を発信するだけではなく、日頃の授業や実習など普段の工業高校らしい様子も随時発信していく。</p>	<p>①体育祭、文化祭、マラソン大会といった行事において参加される地域や保護者の方々の安心・安全を優先しながら実施ができたか。生徒が主体的に取り組める内容であったか。</p> <p>②HPをこまめに更新し、その内容を充実することができたか。また、定時制の広報活動の充実を図ることができたか。</p>	<p>①マラソン大会、体育祭に多くのPTA保護者の参加や協力を得ることができた。これまでと比較し、生徒が行事へ主体的に出席している様子が多くなりみられるようになってきた。</p> <p>②始業式や遠足、体育祭等の行事や、日頃の授業や実習の様子をHPに更新し、本校の魅力・特色をアピールすることができた。</p>	<p>①生徒の主体的な活動の促進につなげていけるよう、様々な行事や教育活動について引き続き地域との連携・協働した活動の推進に向け検討していく。</p> <p>②学校説明会や学校見学に興味を持ってもらえるよう、学校紹介をより分かりやすく工夫する。</p>	<p>①地域貢献は生徒の自己肯定感を高める活動の一つです。今後は予備日を設けるなど、実施を推進してほしい。地域等との連携はソーシャルスキル獲得の実践の場としても活かすと良い。</p> <p>②中学校の先生対象の学校見学会を実施するなど、学校の魅力を発信してほしい。</p> <p>HPの更新頻度が多く評価できる。他校との比較などを盛り込んで、定時制の魅力、特色の発信にもっと意識を向けるとより充実すると考える。</p>	<p>①マラソン大会、体育祭に多くのPTA保護者の参加を促し、生徒達が以前よりも各行事へ主体的に参加する姿が見られたが、地域貢献活動は悪天候により中止となった。</p> <p>②HPを活用し、定時制の生徒の活動や学校の様子を、地域や中学校に発信することができた。ただし、全日制との違いや工業高校としての特色である資格取得などの具体的な内容の説明が課題である。</p>	<p>①引き続き各行事に積極的にPTA保護者の参加をお願いし、地域との連携・協働した活動の推進に向け、悪天候時の予備日の設定等、地域貢献活動への実施を推進する方法について検討していく。</p> <p>②HPを通じて、本校の魅力・特色を発信できるよう、内容を精査する必要がある。また、中学校教員への説明会や見学会を行い、他課程よりも丁寧で柔軟な取り組みが行えることを伝えていきたい。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①生徒が安心して学校生活を送れるよう学習環境の整備、防災体制の整備に取り組む。</p> <p>②研修による意識啓発、業務の共有、協働、効率化をめざし、働き方改革の推進と事故不祥事の未然防止を図る。</p>	<p>①感染防止対策を講じた学習環境の整備とICTの活用に向けた校内体制の整備の充実を図る。また、生徒の防災意識の向上と校内防災体制の強化を図る。</p> <p>②各グループ・班の業務内容や分担を再点検し、業務の相互補助や協働を進め、効率化と進行管理の徹底を図る。また、事故不祥事防止研修会を定期的に開催することで、当事者意識を醸成し、事故の未然防止につなげる。</p>	<p>①検温や手指消毒の徹底を図り、感染防止への意識を向上させる。ICTの活用に向けて生徒への支援、教員の研修を充実させる。また、防災訓練や防災教室を実施し、周囲の協力、状況に応じた生徒の防災行動を身に付けさせる。</p> <p>②各業務の共有化により、主・副担当の相互補助を進め、必要に応じて全体での協働作業による効率化を図るとともにGLや班長は、業務の進行管理に気を配る。</p>	<p>①感染防止対策を徹底することができたか。生徒も教員もICT活用に取り組むことができたか。防災訓練や防災講演会の実施により、生徒の防災意識の向上を図ることができたか。また、地域・保護者との協力体制を整備することができたか。</p> <p>②職員相互の連携が取れて、業務が一人に集中することなく、遅滞や事故なく業務が遂行できたか。</p>	<p>①校内での感染防止対策を徹底することができた。ICTを活用した授業づくりの支援として教員の研修を行い、意識が高まった。6月の夜間防災訓練・防災講演で、生徒の防災意識の向上に役立てた。また、地域住民や保護者との連携を図ることができた。</p> <p>②各グループ、各班の業務改善が進み、また、業務の進行等に関して、職員全体にTeams掲示板等で共有する方法が浸透したことで円滑な業務の遂行、進捗管理ができた。</p>	<p>①生徒の感染対策意識が下がらないよう、注意喚起を継続する。ICT活用に向けての教員同士の情報共有を継続する。今後行われる防災教室においても、地域と連携を取り、情報共有がとれるよう検討する。</p> <p>②全職員相互の連携や各グループリーダーの的確な進捗管理により、業務が円滑に進んでいる。引き続き、不祥事防止を徹底し、各業務を遺漏なく進める。</p>	<p>①小中学校でのICT活用の実態を把握して、高校における活用について職員研修を充実させてください。</p> <p>地域・保護者と連携した夜間防災訓練が実施できたことは防災意識の向上に役立ったと思います。避難用具の整備にも尽力してほしい。</p> <p>②管理職を含め、特定の職員に業務が集中することがないように、業務の進行管理を全体で共有することは大事です。引き続き風通しの良い職場環境の構築に努力してください。場合によっては専門家や外部の業者を活用するなど環境を整えてもらいたい。</p>	<p>①感染症防止の意識は高まり、日常の習慣として定着し継続されるようになった。生徒や教員がよりICTを活用できるよう引き続き研修や情報共有を行う。地域との連携した夜間防災訓練が実施でき、地域との協力体制を整備することができた。</p> <p>②各グループリーダーや班長に業務の負担が大きくなる時期があった。不祥事防止研修会等を通じて啓発活動を継続した。TEAMSによるサービスの徹底を図った。</p>	<p>①活用例の提示や授業見学での実践などの資料を集め、閲覧が可能なようにまとめる。</p> <p>②職員相互の連携により、業務が一人に集中することなく、遅滞や事故なく業務が遂行できるように、職員全体で業務の標準化をさらに進める。事故や不祥事は、いつ、どのような状況で起こるかかわからない。引き続き、当事者意識を持てるような研修等を実践すると同時に、働き方改革を柱に事故の起こりにくい職場環境整備を進めていく。</p>